



学生による授業評価を実施

一教員の自己開発の一環として一

大学が教育研究の最高機関であるためには、常に研究・教育の面
で向上し、かつ高い水準を維持していかなければなりません。教育
研究の質的な向上と維持には、大学の設備、経費、環境などと共に
教職員の質の向上が重要です。そのため、多くの大学では教員の自
己点検評価やFD (Faculty Development) 活動を行って、教育研究
の質的な向上、維持を図ってきています。従来、個々の授業が学生
にどれほどの効果をもたらしているのかは、教員各自がそれぞれに
調査し、参考として来ました。本学では創設1年を経て、この度学
生による授業評価(授業に関するアンケート)を、短期大学部とと
もに組織的に実施しました。授業概要(シラバス)や授業内容が学
生に解りやすかったか、授業が期待通りに行われたか、板書や音声
の分かり易さ等、多くの面からの調査が行われました。アンケート
は統計処理を行って評価し、各教員に報告されて以後の授業の向上
に資することになります。

(教授・上島 孝久)

栄養セミナー発表会

一栄養セミナーを終えて一

最初にこの授業名
を見て正直「どんな
ことをするのだろ
う。」と何度も授業概
要を読み直しました。
その授業とは、学生
が小グループに分か
れ、チューター(学
科教員)の助言のも
とにそのグループで



大テーマを決め、それに基づいて各学生が調べ、調べた内容をグル
ープごとに発表するというものでした。最終的には、調べた内容をレ
ポートにまとめました。これを前半と後半で、グループおよびチ
ューターを変え、合計2題について行いました。

この授業は今まで高校でやったことのない形式だったり、レポー
トの作成にも手こずりもし、私にとっては難題の多いものでした。
しかし、この授業を通して私は、自分ひとりが調べていても、グル
ープ全体の連携ができていなければ発表していても相手に言いたい
ことが伝わりにくいことを痛感させられました。

このセミナーを通して、学生相互の交流はもちろん、先生と触れ
合うこともできました。また私達が自ら問題点を見つけ、それを解
決していく自己学習の習慣も学ぶことができました。これは今後の
私達にとって、とてもよい経験となりました。

(人間栄養学科1年・森 祐美子)

一教員からのコメント一

平成15年度「栄養セミナー」の発表会は、前半課題分は6月4
日に、後半分は8月5日に、それぞれ約2時間30分をかけて行わ
れた。

後半の課題は前半に比してより具体的になり、健康・医学関連が
5題、食材関連が5題、調理・料理関連が3題、その他が2題であ
った。全体的に学生の「取り組み姿勢」が消極的で、纏まりを欠い
た発表が多かった。試験期間の直後であり十分な準備が出来なかつ
た点はあるが、チューターがより介入して指導する、上級生の指導
を受けず、成果の顕彰などを考え、教育効果がよりあがる方策を
創出しなければならないだろう。

(教授・林 英生)

一発表題目一

前半発表会(6月4日): チョコレート/食事と運動で自分を磨こう
/エネルギーについて/水について/ソーセージの添加物について
/精進料理について/朝食/離乳食/緑茶/ヨーグルトについて
/母乳について/おいしい料理とは/栄養士はなぜ必要か?/五大栄
養素について/糖尿病/

後半発表会(8月5日): 夏バテについて/癌について/油と脂/ア
イスクリューム/たんぱく質について/インスタントラーメンについ
て/郷土料理/地産地消/高血圧/パンとご飯の比較/日本料理に
ついて/しみそばかす/献立を作ってみよう/大豆/快眠について

オープンキャンパス開催

一オープンキャンパス委員の活動を通して一

オープンキャンパス
は高校生の為にも、大学
の為にも大切な行事で
す。その大切な行事の先
頭に立って頑張るのが、
私達オープンキャンパ
ス委員の役目です。活動
の内容は、私が思ってい
た以上で大変でした。何
日も前から打ち合わせ
を重ね、どうしたら高校
生に楽しく大学を理解
してもらえるのか、大学
をアピールするにはどん
な方法が一番良いのか
を話し合いました。その
甲斐あって、当日は和気
あいあいの雰囲気の中
で座談会も終えること
が出来ました。高校生
たちの満足そうな顔
を見ていると、この役
割を受け持つて良かった
なという気持ちになり
ました。

私たちの活動によってより多くの高校生が目的意識を持ち、私
たちの大学を受験してくれて、充実したキャンパスライフを送って
くれることを期待しつつ、これからも頑張りたいと思います。

(人間栄養学科1年・堀家 早苗)

体験授業:調
理実習(左)座談会
(右)

中国学園大学進路体験学習開催

一県立邑久高等学校2年生来学一

5月1日、県立邑久高等学校2年生(女子20名)が、進路体験
学習の一環として本学人間栄養学科を訪れました。学生課による全
体説明会の後、林教授による微生物学の講義を聴講しました。その
講義では、病原細菌のゲノム解析についてとてもわかりやすく解説
されたテキストが配布され、高校生はほんの一瞬でも、大学の授業
の雰囲気を感じ取れたのではないのでしょうか。次に、私たちがエネ
ルギー消費量および食事診断の意義と測定方法等について説明した
後、高校生はそれぞれの希望に応じて二つのグループに分かれ実習
を始めました。食事診断は時間内に結果の印刷までできるかと不安
でしたが、小さなハプニングはあったものの結果を出すことができ、
またエネルギー消費量の測定では、どんな事をするのかと興味深い
様子で真剣に実習を行っていました。後日、今回の体験学習が高校
生に好評だったという反応があり、嬉しく思いました。

(講師・川上祐子、上田由喜子)



食事診断方法の説明

体育祭開催

5月13日、中国学園大学・中国短期大学合同の体育祭が開催
されました。私達にとっては2度目の体育祭でした。1年前に比べ、
クラスの仲も良くなり、また1年生が加わり、人数も多くなって楽
しい体育祭とする事が出来ました。この体育祭で私たちが力を入
れたのが、1・2年生お揃いのTシャツでした。Tシャツの後ろに、
ペンキで学籍番号を書くというものでした。クラスにより、それ
ぞれペンキの色も変えました。見ただけで人間栄養学科というのが分

かるものでした。この T シャツのおかげで私達は同窓会長賞をいただきました。とても嬉しかったし、また来年も T シャツを作って、団結力を見てもらいたいと思います。みんなで何か一つの事をやり遂げるのは大変だけど、やり遂げるととても楽しく、達成感や充実感が湧いてきます。あと2回ある体育祭も楽しいものになりたいです。



同窓会長賞受賞

(人間栄養学科 2年・大崎 華奈)

後援会・懇談会開催

中国学園大学・中国短期大学後援会の地区総会並びに各科懇談会が去る7月12日(岡山会場)と19日(福山会場)で開催されました。岡山会場に出席された保護者の方から感想が寄せられましたので紹介いたします。



懇談会(福山会場)

一懇談会に出席して一

7月12日総会后、一年生と二年生の父兄合同による懇談会が開かれました。先生方からは、子供達の置かれている現状、勉強への取り組み姿勢、学校生活の様子等普段なかなか得る事の出来ない情報をお話頂きました。また各ご父兄からは、一年前、期待と不安で入学させた時の新鮮な気持ちを思い出させて頂き、同じ悩みを持つ親として刺激を受けました。子供達が、二年後に待ち受けているであろう社会の厳しい現実と直面した時、親として何が出来るのか、それ迄にやっておかなければいけない事は何か、傍観者にならないで見守る事の大切さ、子供の自主性を尊重しどのようにエールが贈れるか、改めて考えさせられた意義の深い一日でした。

(大野 京子:人間栄養学科2年・大野梢 母)

中国学園大学公開セミナー

第9回 林 英生 教授 (平成15.5.30, 16:30~, 1301教室)

「病原細菌のゲノムの特徴ーゲノムから見る病原性ー」

ヒトに病原性のある細菌として、黄色ブドウ球菌、ウエルシュ菌、大腸菌の遺伝子解析(ゲノム配列解析)について、その特異性を考察した。それぞれの細菌のゲノム配列は固有で、遺伝子数もさまざまである。病原遺伝子は多種多様であり、同じ遺伝子を重複してもつもの、複数種の病原遺伝子がクラスターとなり、遺伝子群(Pathogenicity Island, PI)を構成しているもの、など可塑性と多様性に富んでいる。PIは細菌から細菌へ、あるいは他の生物から、環境条件に適応して取り込みや排除を行って進化・適応変化している。また病原因子は条件により質・量が調節されている。環境因子・条件を感知し遺伝子発現を制御(2成分制御系)している発現調節ネットワークの解明がこれからの課題である。

第10回 森脇 晃義 教授 (平成15.6.27, 16:30~, 1301教室)

「神経ホルモンの生合成」

ペプチド伸展因子2(EF2)はリン酸化、脱リン酸化修飾を受けることにより、リボソーム上での翻訳を制御している。一般にEF2はリン酸化されると翻訳が停止するが、リン酸化されると特異的なmRNAの翻訳がかえって促進される場合があることがin vitroの系で最近報告された。リン酸化型はラット脳視床下部の室旁核や視索上核に認められた。そして、リン酸化型はバソプレッシンと共存していた。さらに脱水による浸透圧の上昇によって、リン酸化型は室旁核や視索上核で増加した。これらの結果から室旁核や視索上核における、浸透圧に応答するバソプレッシンの生合成には翻訳段階で促進される過程が存在する可能性があると考えられる。

第11回 西田 典教 助教授 (平成15.7.18, 16:30~, 1301教室)

「生活習慣病、心臓病・脳卒中・動脈硬化とその予防」

食習慣、運動習慣、喫煙・飲酒習慣、過労・ストレス・睡眠等の生活習慣は、糖尿病、高血圧症、高脂血症、肥満症、骨粗鬆症、更には日本人の3大死因の癌、心臓病、脳卒中等多くの疾病の発症・増悪に深く関わっています。生活習慣を直すことによって、生涯にわたり健康増進し生活習慣病を予防し、健康に生きる・健康に老いることが大切です。一方、心筋梗塞症や脳卒中等の重要臓器の動脈硬化による致命的な疾患は、一般健診で未然に予測し発症を防ぐことは非常に困難です。これらと、早期診断・治療の為に行ってきた多くの患者さんの運動等負荷検査・心電図についても、実際の動画や画像等を示しながら解説しました。医師の立場から見たこれからの管理栄養士像、救急法・心肺蘇生法等についても述べました。



第11回公開セミナー

受験生の皆さんへ

一推薦選考・一般選考・特別選考について一

中国学園大学では、受験生の便宜を図りながら大学が求める人材を見出すために、多様な入試方法(推薦選考、一般選考、特別選考など)を用意しております。自分に合った方法で受験して下さい。

本年度の入学選考スケジュール

◆推薦選考(平成15年)

区分	出願期間	選考日	場所	合格発表
自己I期	10/20(月)~10/27(月)	11/ 1(土)	本学	11/ 5(水)
公募I期	10/20(月)~10/27(月)	11/ 1(土)		11/ 5(水)
指定校	10/27(月)~11/ 1(土)	11/ 8(土)		11/12(水)
公募II期	11/11(火)~11/20(木)	11/29(土)		12/ 3(水)
自己II期	11/25(火)~12/ 4(木)	12/13(土)		12/17(水)

◆一般選考(平成16年)

区分	出願期間	選考日	場所	合格発表
A日程	1/13(火)~1/23(金)	2/ 1(日)	(注1)	2/ 6(金)
B日程	2/ 9(月)~2/19(木)	2/26(木)	本学	3/ 4(木)
C日程	3/ 1(月)~3/10(水)	3/16(火)		3/19(金)
センター試験利用選考				
前期	2/ 9(月)~2/19(木)	/	(注2)	3/ 4(木)
後期	3/ 1(月)~3/10(水)			3/19(金)

(注1)本学、米子、松山、高知 (注2)個別学力試験は課さない。

◆特別選考(社会人・帰国子女)

公募I期、公募II期と同じ日程で実施します。

平成16年度編入学のお知らせ

現代生活学部人間栄養学科では平成16年度の編入学生(3年次編入)の募集を行っています。ふるってご応募下さい。

- ◆試験期日ーI期:平成15年6月28日(合格者確定済み)、II期:平成15年9月27日(土)(指定校推薦と一般選考)、III期:平成16年3月5日(金)(一般選考のみ)の3回です。
- ◆選考方法ー指定校推薦は面接と書類審査、一般選考は小論文、面接、書類審査で総合判定します。

(教授・松浦 康)

平成16年度入試、及び編入学の応募資格等詳細(「編入学生募集要項」請求)は、下記の本学入試事務室まで。

〒701-0197 岡山市庭瀬83番地
Tel. 086-293-1100, Fax. 086-293-3993
E-mail: gakusei2@cjc.ac.jp